

2023年度点検・評価シート

・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針

【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	07 歴史文化学科	責任者	湯城 吉信
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	A
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
≪回答≫明確な教育課程の編成方針を定め、教育課程を体系的に作っている。学生の主体的取り組みを重視する授業を複数展開しており、学生の視点に立った授業を構築できていると判断できる。			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
★<学位授与方針> (記入してください。)			変 有() 更 無(○)
<p>歴史文化学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（歴史文化学）の学位を授与する。</p> <p>1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能</p> <p>(1) 人文分野を始めとして、社会・自然分野に及ぶ確かな知性と鋭い感性を備えた、豊かな人間性を陶冶することができる。</p> <p>2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力</p> <p>(1) 世界、日本、地域の歴史・文化に関する豊富な学識を修め、歴史に学びながら現代社会を生き抜いていくことができる。</p> <p>3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感</p> <p>(1) 現代の多様な課題の発見・解決に主体的に取り組み、歴史文化学科で修得した専門性を総合して、新たな価値の創造に柔軟に活かすことができる。</p> <p>4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解</p> <p>(1) 国際化が進む社会において、異なる立場にある者とも相互理解の上に立って、十分なコミュニケーションを取りながら、協働することができる。</p>			
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。			
≪回答≫なし。			
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
★<教育課程の編成・実施方針>			変 有() 更 無(○)
<p>歴史文化学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を習得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(1) まず、1年次の専門必修科目である「歴史文化学入門A・B」において、歴史文化学全般の導入教育を行い、1年次からの基礎的訓練の動機づけを図る。同時に、専門基礎科目で日本史、東西文化、観光歴史学の各コースの概要を周知し、専門支援科目で各コースの専門教育を支援する専門的な言語運用能力の養成を図ることで、2年次からのコース分けに備える。</p> <p>(2) さらに、1年次から2年次にかけては、語学科目を中心とした基礎教育科目で、国際社会に通用する国際感覚を身につけるとともに、専門教育の基礎となる多様な一般的学力を身につける。また、多様な現代社会の諸問題に対応できるように、学科の枠を超えた全学共通科目で、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を</p>			

<p>図る。</p> <p>(3) そして、2年次には、専門教育として1年次に続いて専門支援科目の学修を深めると同時に、専門必修科目の「基礎演習」において、それぞれの関心に応じた演習科目を配当する。講義科目としても、1年次からの専門基礎科目に加え、コース分けが行われた後なので、学生が選択したコースに関する様々な専門的領域の研究成果を提示する研究科目を用意する。</p> <p>(4) 3年次では、2年次までの基礎的教育の学習成果を進展させて、専門科目を学ぶ。なかでも、専門必修科目の「専門演習」で、各コースそれぞれの専門性に応じた演習が行われる。このように、主体性、創造性や協働性を養うために演習を重視する本学科の立場から、3・4年次には他にも、各コース独自の演習・実習科目を提供する。</p> <p>(5) 3・4年次では、各コースの発展的内容を持つ多様な講義科目を設けて、学生の専門領域の学識を深めるとともに、他領域との交流・比較も行うことで、アナロジーやシナジー効果などによる、さらなる発展を図る。このように、本学科は2年次という比較的早い時期に各専門コースに分かれるという特徴を持つが、同時に3・4年次にいたるまで一貫して、多数の他コースの授業も受講できるという特徴もあわせ持っている。</p> <p>(6) 4年次では、4年間の学問研究の集大成として、「卒業研究」が行われる。各自が指導教員のもとで、自分のコースの学問領域の中で、さらに特定の専門領域を選択して、これまでの学習成果を自らが選んだ具体的な研究テーマの深化のために活用していく。</p>	
<p>2. 教育方法</p> <p>(1) 知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、意欲・関心、課題発見・解決、及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また理論的知識や能力を実践に応用する能力を身につけることを目的とする教育内容については、実習形式による授業形態を採用する。</p> <p>(2) 基礎から発展へと体系的な学修が可能となるようにするとともに、特に専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意する。</p>	
<p>3. 評価方法</p> <p>(1) あらかじめ各授業における到達目標やその目標を達成するための授業方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づいて厳格な評価を行う。</p> <p>(2) GPA制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。</p> <p>(3) 4年間の総括的な学修成果として、卒業研究の評価を行う。</p>	
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7
<p>(DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。)</p> <p>DP1. (1) → CP1. (1)</p> <p>DP2. (1) → CP1. (1) (2) (3) (5)</p> <p>DP3. (1) → CP1. (1) (3) (4) (6)</p> <p>DP4. (1) → CP1. (1) (2) (3) (4) (6), CP2. (1) (2)</p>	

<p>★項目(2) 4-2DP1 から DP4 について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか (あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものであり、なおここでは DP1 のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DP 「1. 知識・技能」(1) に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP 「1. 知識・技能」(2) の「文献や資料を的確に読解する」については、CP 「1. 教育内容」(1) で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ、CP 「1. 教育内容」(2) で『日本文学講読』『日本語学講読』や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。 <p>≪回答≫カリキュラムツリーを作成・公開し、DP に基づく科目名がわかるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DP 1. (1) に明示した「人文分野を始めとして、社会・自然分野に及ぶ確かな知性と鋭い感性」については、「地誌学概説」「人文地理学概説」「教科教育法(社会)」「自然地理学概説」などの教職関連科目を設けている。 ・ DP 2. (1) に明示した「世界、日本、地域の歴史・文化に関する豊富な学識」については、東西文化コースについては、「キリスト教史研究」「仏教史研究」「シルクロード史研究」をはじめとする専門科目、日本史コースについては、「昭和史研究」「明治維新史研究」「江戸文化史研究」などの専門科目、観光歴史学コースについては、「博物館概論」「ミュージアムと観光研究」「日本観光史研究」「世界観光史研究」などの専門科目を設けている。 ・ DP 3. (1) に明示した「現代の多様な課題の発見・解決に主体的に取り組み」については、「歴史文化学入門」「基礎演習」「専門演習」を設けている。 ・ DP 4. (1) に明示した「国際化が進む社会において、異なる立場にある者とも相互理解の上に立って、十分なコミュニケーションを取りながら、協働すること」については、「情報処理」「海外研修英語」「海外研修中国語」などの基礎教育科目、「上級観光英語」「添乗英語」「観光英語」などの専門支援科目を設けている。 	
<p>◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</p> <p>≪回答≫なし。</p>	
<p>点検・評価項目(3)</p>	<p>4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>
<p>評価の視点1※</p>	<p>教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス</p>
<p>評価の視点2※</p>	<p>学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー</p>
<p>評価の視点3※</p>	<p>専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ</p>
<p>評価の視点4※</p>	<p>学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き</p>
<p>評価の視点5※</p>	<p>単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 9、10</p>
<p>評価の視点6※</p>	<p>教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス</p>
<p>評価の視点7※</p>	<p>編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き</p>
<p>評価の視点8</p>	<p>初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。</p>
<p>★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて、概要を解説してください。</p>	
<p>≪回答≫歴史文化学入門では、高校の歴史の授業と大学における歴史研究との違いをわかりやすい実例を用いて教授している。</p>	<p>≪根拠資料≫ 07-C4-1: 歴史文化学入門 テキスト落合執筆部分</p>
<p>評価の視点9※</p>	<p>教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き</p>
<p>評価の視点10※</p>	<p>学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ</p>
<p>評価の視点11</p>	<p>学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。</p>
<p>★項目(3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料(該当す</p>	

るシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など)を用いて回答してください。	
<p>《回答》新学科であったが、昨年3月および今年3月に卒業生を送り出すことができた。各ゼミで随時卒業生を招き、在校生に話をしてもらう機会を設けている。2023年6月3日のホームカミングデーでは、卒業生を招き、教員と座談会を行い、在校生にも議論に参加してもらうことになっている。</p>	<p>《根拠資料》 07-C4-2: ホームカミングデー要項 2023.6.3</p>
<p>★項目(3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。</p>	
<p>《回答》「総合英語 A」「総合英語 B」。国際性を高め国際的コミュニケーション能力の向上は学科としても目標とするところであるため。</p>	
<p>★項目(3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。</p>	
<p>《回答》1年時は、各コースのガイダンスとなるよう歴史文化学入門では各コースの教員が各クラスを回ってリレー講義を行っている。</p>	
<p>◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。</p>	
<p>《回答》なし。</p>	
<p>点検・評価項目(4)</p>	<p>4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>
<p>評価の視点1※ 【基礎要件●】</p>	<p>学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート9</p>
<p>★項目(4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。 (注:「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。)</p>	
<p>《回答》なし。</p>	
<p>★項目(4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる(履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要)。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。</p>	
<p>《回答》なし。</p>	
<p>★(上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください)</p>	
<p>①諸資格科目(教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等)履修学生数:150人 ②長期海外留学終了者 学生数:0人 ③編入生 学生数:0人 ④転学部・転学科生 学生数:0人</p>	
<p>《根拠資料》 07-C4-3: なし</p>	
<p>《根拠資料》 07-C4-4: なし</p>	
<p>評価の視点2※</p>	<p>シラバスの内容(到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示)に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」</p>
<p>評価の視点3※</p>	<p>シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制</p>
<p>評価の視点4</p>	<p>学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。</p>
<p>★項目(4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて解説してください。</p>	
<p>(1)主体的な学び(演習、実習、フィールドワークなど)の事例</p>	
<p>《回答》歴史文化学入門 AB、基礎演習 AB、専門演習、卒業研究(いずれも必修科目)において、学生自らが課題に取り組み、結果をまとめて論文にまとめ口頭発表することを行っている。</p>	<p>《根拠資料》 07-C4-5: 『「歴史文化学入門」共通テキスト』</p>
<p>(2)インタラクティブ(双方向)な授業展開のための少人数授業の事例</p>	
<p>《回答》歴史文化学入門 AB、基礎演習 AB、専門演習(いずれも必修科目)において、史料を読解し討論する授業を行っている。</p>	<p>《根拠資料》 07-C4-6: シラバス(新居洋</p>

		子先生「基礎演習A」
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例		
<回答> 1年生の歴史文化学入門において、1クラス20名程度の少人数のクラスとし、その中で4、5人のグループを組んでグループで研究活動を行っている。また、その発表の場として、学年全体で発表会を行い、質問や感想の交換を行っている。		<根拠資料> 07-C4-7:『「歴史文化学入門」共通テキスト』ガイダンス部分
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例		
<回答> 歴史文化学入門において、学生がグループで課題に取り組んでいる。		<根拠資料> 07-C4-8:『「歴史文化学入門」共通テキスト』ガイダンス部分
(5)効果的な授業方法について上記(1)~(4)以外の事例		
<回答> なし。		<根拠資料> 07-C4-9: なし
評価の視点5	学習の進捗と学生の理解度の確認	
★項目(4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。		
<回答> 授業内において、リアクションペーパーや manaba 上のレスポンスで学生からのフィードバックを行っている。		
評価の視点6※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 (履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合はWebサイトも可→別紙の備考にURL記入)	
評価の視点7※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス	
★項目(4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。		
<回答> 3年生のゼミが決まった学生には、事前課題を課し、ゼミの学習が始まる前にその内容を理解させ、スムーズにゼミ学習が行えるように指導している。		<根拠資料> 07-C4-10: 2022年度湯城ゼミ事前課題(2023年度3年生用)、2022年度観光歴史学コース事前課題(2023年度2,3年生用)
評価の視点8	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。	
★項目(4) 4-4⑥授業形態(講義、実習、演習)によって、1授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例: 演習科目、実習科目は少人数(原則10名以下)、大規模講義科目は原則200名まで、など)		
<回答> 1年生の歴史文化学入門は1学年(定員100名)を5クラスに分けて20名以下になるように設定している(2023年度のみ担当教員が確保できず4クラス各25名になった)。3年生のゼミでも希望の多寡はあるが、多い場合も15名では収まるように調整している。		
評価の視点9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みを実施している。	
★項目(4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みについて、記述してください。		
<回答> 2023年度よりシラバスに予習・復習の内容を明示するようになった。		<根拠資料> 07-C4-11: シラバス(「歴史文化学入門A」)
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。		
<回答> なし。		
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	

<p>評価の視点1※ 【基礎要件●】</p>	<p>成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPAによる成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料</p>	
<p>評価の視点2※ 【基礎要件●】</p>	<p>学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12</p>	
<p>◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。</p>		
<p>＜回答＞なし。</p>		
<p>点検・評価項目(6)</p>	<p>4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>評価の視点1※ 【評価要件○】</p>	<p>学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>	
<p>評価の視点2※ 【評価要件○】</p>	<p>学生の学習成果の測定方法を開発している。 ＜学習成果の測定方法例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>	
<p>★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。</p>		
<p>＜回答＞「歴史文化学入門」が開講から5年を経過したので、『歴史文化学入門』の科目設置方針通りの実施と、1年次生からの高い評価の獲得」という評価指標を設定し、測定手段として年度末に1年生を対象に学科独自のアンケートを実施することにした。</p>	<p>＜根拠資料＞ 07-C4-12：部局ごとの評価指標（2022－2025）</p>	
<p>★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。</p>		
<p>＜回答＞「学科独自アンケート」を分析した結果、学生が満足していることを確認できた。「学修行動調査」を分析した結果、授業出席率も高く、学習意欲が高いことが確認できた。また、授業への満足度も高いことが確認できた。</p>	<p>＜根拠資料＞ 07-C4-13：学修行動調査分析報告 230207、歴文入門アンケート結果報告 230207</p>	
<p>★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。</p>		
<p>＜回答＞現時点ではなし。</p>		
<p>★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。</p>		
<p>＜回答＞現時点ではなし。</p>		

点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023 年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023 年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。	
★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例： ・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理し FD 部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。		
「回答」卒業論文の評価をどのように数値化するかについて議論を開始した。どのような項目立て・得点配分が適当かを考え、試験的に実施して考えることを考えている。	≪根拠資料≫ 07-C4-14：卒論についての FD_230214	
★項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
「回答」なし。	≪根拠資料≫ 07-C4-15：なし	

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項(工夫していること)を、意図した成果(目標)を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	卒論 2 年目を終え、FD 研究会を設けて、その経験を共有し、今後の方向性について議論している。数値化についてはなかなか難しいが、どのような方法があり得るのか、試験的に試してみることを考えている。
-------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	特になし。
--------	-------

IV 【改善計画(事業計画)】

カテゴリ	計画番号	B 票 No. or 開始年度	改善計画(アクションプラン)	内容(改善を要すると判断した根拠)	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2022-4III-1(4-7)	卒業研究において、学習成果可視化のための評価指標の開発・実行と有効性を検証	卒業研究において、学習成果可視化のための新たな評価指標を開発・実行し、その有効性を検証する。	直接評価の測定結果(アセスメントテスト)及び間接評価(学生調査)を総合した測定結果の活用事例の明確化と、教育改善の実行	A(100%)：評価指標の効果を検証する B(80%)：評価指標を実行する C(50%)：評価指標を作成する D(20%)：	2022 末結果：C 2023：B 2024：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>「職業的自立」に直接つながる教育を行っていないということだが、就職状況等をふまえる必要なキャリア教育の実施を検討することを期待したい。「卒業生・就職先への意見聴取」は、教育課程の改善・向上のための有効な取り組みだと思われるので、継続的に取り組んでいただきたい。</p> <p>また、2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、必修科目「歴史文化学入門」の検証としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討としている。これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>歴史文化学科の教育課程はDP（学位授与方針）とCP（教育課程の編成・実施方針）の関連が明確な形で編成されている。そのことは、カリキュラムツリー、カリキュラムマップ等にもとづく点検・評価シート等の根拠資料から確認できる。ただ、項目(3)4-3④「当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色」の回答からは、残念ながら貴学科の教育内容や特色を読み取ることができなかったため、次年度は第3者に分かりやすく記述されることが望まれる。</p> <p>学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置として、ゼミごとに卒業生を招いて在校生に話をしてもらっていること、1年生の「歴史文化学入門」では1クラスが20名以下に、3年生のゼミでは15名以下になるよう配慮していることなどは評価できる。</p> <p>主体的な学びの事例、インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例、教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例、授業方法としてグループ活動の活用の事例について記された積極的な取り組みや、卒業生を2回送り出したことから、FD研究会を設けて、その経験を共有し、今後の方向性について議論していることは評価できる。また、社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育として、新しい学科ではあるが、各ゼミで随時卒業生を招き、在校生と話す機会を設けていることも評価できる。</p> <p>部局独自の学習成果の測定指標として「学科独自アンケート」を実施、分析した学生が満足していることが確認できたことは評価できるが、学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況について、卒業論文の評価をどのように数値化するかについて議論を開始したとあるがやはり文学部のほかの学科に比べると取り組みが遅れていることは否めない。今後の改善に繋がることを期待する。</p> <p>貴学科において必修である卒業論文は教育の集大成といえるのではないかと思うので、成果の評価指標が早急に開発されることを期待する。今後全学的な学修成果可視化の実現のために、DP（学位授与方針）・AG（到達目標）の修得度がグラフ化される過程において、歴史文化学科の取り組みが一層活用されることが期待される。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。</p> <p>（評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）</p>
B	<p>大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。</p>
C	<p>大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。</p>

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。